

実践事例発表レジュメ

研修・研究事業名	
実践事例名（テーマ）	本物を「見る」「さわる」って楽しい！ ～出前授業は博学連携の第一歩～
事業主体（実施機関）	川越市立博物館
連携・協力機関等	
発表者	川越市立博物館 教育普及担当 伊藤 直仁

期日 令和元年 10月 3日

内 容

1 川越市立博物館とは

○平成2年3月開館

- ・市制60周年記念事業の一環
- ・本年度で30年目を迎える
- ・歴史系博物館

○川越市博物館条例施行規則

- ・事務分掌＝学校教育の援助
- ・職＝指導主事を置ける

学校籍の指導主事2名を置いており、教育普及担当として博学連携に当たっている

○組織

- 【学芸担当】 常設展示及び特別展示、資料の利用許可、資料の寄贈及び寄託、資料の収集・保管及び管理、資料に関する専門的・技術的な調査研究
- 【管理担当】 施設・設備の維持管理、入館料その他諸収入、博物館協議会、博物館関係団体との連絡及び調整
- 【教育普及担当】 講演会・研究会・講座等の開催、資料に関する解説書・目録・図録・研究報告書等の刊行、体験学習室・視聴覚ホール及びビデオルームの企画及び運営、展示解説員、学校教育の援助、他の博物館・公民館・図書館その他関係機関との協力

2 博学連携の必要性

- 博物館に壁を感じる学校と連絡を待ち続ける博物館
- 一見なくても困らないように見える博学連携
- 博学連携が生み出す「教科書の域を超えた学びの創出」
そして、それぞれの社会的使命の達成

○出前授業は博学連携の第一歩となる

しかし、その前に学校側が感じている「壁」を取り除く必要がある！

→まずは博物館が主体となった利用を！

教育委員会と連携して教育課程に位置づけて。

それから出前授業に！

3 博物館が主体となり、教育課程に位置づけた事業

○各学校の教育課程（国語、社会、算数、理科・・・総合的な学習の時間などの教育計画）に「博物館利用○時間」と位置付ける

しかし、博物館から遠い学校はバス台がかかり、利用は厳しい

→全校の教育課程に博物館利用を位置づけて、教育委員会からバスを配車する

- ・予算は教育委員会（教育指導課）
- ・年間30日のバス配車（バス2台を一日借り上げ）
- ・市内小学校全32校の3、6年生を対象に

(1) 市内小学校第6学年の社会科・図画工作科学習の支援

特色① バスによる送迎

- ・1日3便
- ・1便につきバス2台
- ・年間15日間

特色② 館職員との授業

- ・1便につき2クラスを受け入れ
- ・社会だけでなく図画工作科としても教育課程に位置づける（美術館の利用）
- ・90分授業（博物館45分、美術館45分）
- ・学習内容は学校側が立案し、博物館側と打ち合わせを行った上で決定する



特色③ 事前説明会・共通理解

- ・1学期の学校は4月に、2学期の学校は8月に合同説明会を開催
- ・館内を授業で使える素材という視点で案内
- ・学習内容等について授業日1週間前までに打ち合わせを行う

(2) 市内小学校第3学年社会科「人々のくらしのうつりかわり」の学習支援

特色① バスによる送迎

- ・1日3便
- ・1便につきバス2台
- ・90分授業（学習45分、体験45分）
- ・年間15日間

特色② 学習内容に応じた企画展の実施

特色③ 体験学習の実施

- ・炭火アイロン・洗濯板による洗濯・石臼曳き



特色④ 学習アドバイザーによる支援

- ・市民ボランティア ・川越唐棧手織りの会
- ・華の会 ・川越更生保護女性会
- ・川越古文書同好会 ・川越縄文土器の会

特色⑤ 館職員との授業

- ・洗濯機、冷蔵庫の違い、年代による生活の違い

特色⑥ 事前説明会・共通理解

- 2つの取組が学校の博物館に対する壁を取り除き、博物館を活用しようという思いを生み出す

→博物館への相談から出前授業へ！



4 教員が主体となり、学校の要望に応じて実施している事業

○出前授業

(1) 小6社会「縄文のむらから古墳のくにへ」

学校の願い

歴史の学習始めなので、これからの社会の授業がワクワクするような体験を行いたい。博物館から触れる土器や埴輪をもってきてほしい。

授業の課題

「グループごとに、容器の中に入った12個の土器のかけらの中から、縄文土器のかけらを探そう」

実践ポイント

- ・教科書や資料集を参考にして土器を縄文土器か弥生土器かを判別していく
- ・選んだ理由をグループごとに用意されたホワイトボードに書いて発表する
- ・正解発表後、修復された縄文土器・弥生土器を見せて、疑問点や当時の様子や補足解説していく



(2) 小4社会「先人のはたらき」

学校の願い

川越市がまだ川越藩だった時代、どんな開拓事業が行われたか、またその大変さを実感させたい。

授業の課題

「開墾に使われた黒鍬や唐桑の使い方、落ち葉をいっぱい詰めた竹籠を体験しよう」

実践ポイント

- ・「栄養のない荒地をどうすればよいか」「水のない土地でどのように作物を育てるか」「どうすれば強風の吹く土地で耕した畑を守れるか」という3つの課題を考えさせてから、三富新田を紹介する
- ・クラスを2つに分けて、それぞれで黒鍬、唐桑を実際に持ってみる体験を行う
- ・落ち葉を詰め込んだ(約10kg)竹籠を背負って、当時の人々の大変さを実感する



(3) 小4 総合「赤間川のまわりを調べよう」

学校の願い

学校周辺の川にまつわる歴史や変化を感じさせたい。

授業の課題

「赤間川のまわりを歩きながら、昔と今を比べてみよう」

実践ポイント

- ・ 博物館収蔵の赤間川や橋の昔の写真や資料を使い、現地に行きながら昔と今を比べる
- ・ 保護者もサポーターとしてついてもらい、安全面を確保するとともに、保護者にも地区の歴史を知ってもらう



(4) 県立盲学校（初・中・高等部）「縄文時代の様子」

学校の願い

目が見えない子どもたちにも博物館の楽しさを味わってほしい。博物館から触れるものを持ってきて、授業をやってほしい。

授業の課題

「縄文時代の人々はどのような生活をしていたのか、体験してみよう。」

実践ポイント

- ・ 3つの活動をローテーションで行っていく
- ①用意された様々な石を触って比べる中で、黒曜石の特徴を考える
- ②まいぎり式の火起こし体験を行う
- ③弓矢を射る体験を行う



(5) 小3 社会「人々のくらしのうつりかわり」

学校の願い

バス利用の日程が遅くてその日には単元が終わってしまうので、学校に昔の道具を持ってきて、調べ学習ができるようにしてほしい。

授業の課題

「おじいちゃん・おばあちゃん、お父さん・お母さんが子どもの頃はどんな生活をしていただろう。」

実践ポイント

- ・ 授業の導入で、氷冷蔵庫、ローラー式洗濯機、手回し洗濯機の使い方や当時の生活の様子を説明して、動機づけをはかる
- ・ 用意した様々な道具を子どもたちが自由に調べ、館職員が子どもたちの質問に答えていく
- ・ 持ってこられなかった道具は博物館に展示してあることを知らせ、休みの日に調べに行こうと促す



○校外学習として訪れる学校への学習支援

(6) 市外小学校第4学年の社会科「歴史や文化を生かしたまちづくり」の学習支援
川越市立博物館の解説付き見学（1クラスに1ガイド）…約50分

ねらい

- ・城下町川越の歴史と現在の町並みとの関係を見る。
- ・蔵造りが建てられるようになった理由を知る。
- ・蔵造りの建物の構造や建て方について知る。

「川越城下町模型」の見学・・・・・・・・・・・・・・・・・・15分

「川越大火」「蔵造りの街並み復元模型」の見学・・15分

「蔵造り模型」の見学・・・・・・・・・・・・・・・・・・15分



5 おわりに

○打ち合わせを大切に！

- ・資料の出し方や博物館職員（専門家）の活用の仕方をしっかりと検討すること
- ・特に博物館職員の活用の仕方については、授業のワンポイントで話をするのか、全体を通して関わっていくのか、また調べ学習や質問などに答えるアドバイザー的な活用になるのかなど、学校側としっかりと打ち合わせを行うこと

○実施した出前授業の流れを記録しておくこと！

- ・それをもとに次の出前授業を行えば、準備に時間がかからない
- ・練り直せばさらに質の高い出前授業が提供できる

○学年の年間指導計画の中に「博物館依頼」という文字を入れてもらうこと！

- ・学校は年間指導計画に基づいて授業が行われるので、ここに掲載されれば、毎年担当学年が変わっても、博物館への依頼が続くことになる

〔参考文献〕

「協働する博物館～博学連携の充実に向けて～」(2019)

小川 義和 編著 ジダイ社

「博物館教育論～新しい博物館教育を描きだす」(2012)

小笠原 喜康 並木 美砂子 矢島 國雄 編 ぎょうせい